

大学通信教育で連携へ

古河の2学校法人と日大

学校法人晃陽学園(古河市)と盈科学園(同)、日本大学通信教育部が、教育分野での連携を強化するための覚書を交わすことが18日、わかった。両学園はインターネット上で大学の授業を学べる学習センターを整備するなどし、大学は学生の募集を始め、10月から学習センターで大学通信教育を受けられるよう準備を進める。

晃陽学園などは、学園の専門学校の卒業生が日大国際関係学部編入できる協定を結ぶなど、これまでも連携を深めている。関係者によると、今回の覚書を機に大学側の教員が専門学校に出張して講義することや、専門学校の生徒が大学の一部授業を受講できるようにすることなども検討していくという。

の確保が困難となっていることから、近隣県などでは大学キャンパスが撤退するなどしている。

18歳人口の減少で学生数

晃陽学園などは、古河市に大学通信教育の拠点を設けることで、経済的に大学進学が難しい高校生たちに新たな機会を提供できるほか、専門学校に通いながら大学の授業も学ぶことが出来る利点などをアピールし、学生確保の面で効果があるとみている。働きながら学び続けたい人や、定年後に専門的な教育を受けたい社会人などの取り込みも見据えている。

晃陽学園の斎藤信行理事長は、「今回の覚書をきっかけに他県からも人を呼び込むことも出来れば、古河を活気づけることにもつながる」と期待を込めた。



日本大学通信教育部と覚書を交わす晃陽学園(18日、古河市で)

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2015年(平成27年)

3月21日 土曜日

春分の日

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 電話(03)3242-1111(代) www.yomiuri.co.jp

古河の2学校法人
日大と連携協力覚書
学校法人晃陽学園(古河
市)と盈科学園(同)は20
日、日本大学通信教育部と
東京都内で連携協力に関す
る覚書を交わした。

覚書は、相互に連携協力
校の名称を使用できるとし
たほか、互いの所有する施
設設備や物品を相互に利
用・貸与するといった内容。
晃陽学園などが運営する専
門学校の施設で日大通信教
育部の授業が行いやすくな
り、大学側は専門学校生の
入学相談を受け付ける。

日大通信教育部の福田弥
夫部長は「晃陽学園の専門
学校にもサテライト教室が
整備されれば、古河にいな
がら東京と同じ授業が受け
られ、大学で学びたい人た
ちにより多様な学習の機会
を提供できるようになる」
と期待した。